

新型コロナウイルス感染症の影響で、聞法の機会が大きく失われてしまいました。このような時にすこしでも皆様に仏法に触れていただけるよう、紙面1枚程度の短い法話を連載いたします。

小松教務所

ぞうぎょう す 雑行を棄てて本願に帰す

『教行信証』 後序 (真宗聖典 P. 399)

ご存知のように、親鸞聖人は9歳で出家得度後、20年間比叡山で修行され「断惑証理」(煩惱の障りを断ち切り、真理をさとること)「廃悪修善」(悪を廃して善を修すること)の道を求められました。しかし、求めれば求めるほど、消そうとすればするほど、我が身の悪しきところが顕かになっていったのです。

そして山を下りられました。「泣く泣く山を下りられた」と伝えられています。失意の中でどん底まで落ちたわけです。ところが、その落ちたところに仲間があった、出遇いがあった、そして大地があったと気づかれました。大地の底でも生きられると。

人の上におればいつ何時、足を引っ張られるかわからないが、大地の底であるならばそれ以上落ちることはない。これは決して自分を卑下して言っているのではなくて、逆に大地の底でも安心して生きられるということなのです。

そういったところを感得したのは、生涯の師と仰ぐ法然上人と出会ったからです。その出会いによって親鸞聖人は、

建仁辛酉の酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す。(『教行信証』後序)

と出会いによる感動の言葉を述べられました。「廻心」の言葉。感動の言葉といわれています。「廻心」というのはところが翻るということです。単



なる安っぽい自己反省ではない。

今までの自分が常識だと思っておったことが、本当にこころの底から翻ること、それがこの「雑行を棄てて本願に帰す」ということなのです。

また、ここに出てくる「雑行」というのは、お念仏(=「正行」)以外すべての行であり、もっとわかりやすい言葉に換えますと「頑張る」ということです。ですから、親鸞聖人は「頑張る」ということを棄^すてられたのです。

ただ、この受け止めは諸刃の剣になりかねません。「頑張ることをやめたら仏さまの教え(願い)に遇うた」となると、頑張る意味がなくなってしまう。やはり目標を持って頑張ることは大事です。ですからこの言葉のお^{きと}諭しは、仏さまの教え(本願)に遇うてみたら、頑張ること



によって結果が出ようが出まいが、勝とうが負けようが、去年まで出来たことが今年は歳のせいで一つもできなくなっても、もっと言えば、体調を崩して病院のベッドに寝たきりになってしまっ、一日生きるためには人様のお世話にならないとどうにもならないことになってしまったとしても、「あなたの尊さは一切変わることはないのですよ」というのがこのお言葉なのです。

もっと簡潔に言いますと「あなたはあなたのままでいい」ということ。これは簡単なことですがけれども、これに領けたら随分生きていくことが違ってくると思います。

小松教区 誓立寺 はやし ひろむ 林 拡

な

む

あ

み

だ

ぶ

つ